

最近の英和辞典における複合形容詞について

著者	西部 真由美
雑誌名	東邦学誌
巻	38
号	2
ページ	1-10
発行年	2009-12-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1532/00000196/

最近の英和辞典における複合形容詞について

西 部 真由美

目 次

- 1 はじめに
 - 1.1 代表的な最新英和辞典
 - 1.2 複合形容詞の言語学的定義と分類
 - 1.3 分析方法
- 2 辞典における複合形容詞の扱い
 - 2.1 概観
 - 2.2 連結形
 - 2.3 名詞-edで終わるもの
 - 2.4 分詞形で終わるもの
 - 2.5 多種類の語頭要素と結合する語尾要素
- 3 まとめと結論

1 はじめに

1.1 代表的な最新英和辞典

21世紀に入り日本では学習者・一般向け用の英和辞典が次々に新刊されたり、大幅改訂版が発売されたりしている。最近の辞書編纂には、コンピューター技術の進歩により言語コーパスに基づく調査が欠かせなくなった。また、従来の机上版のみならずCD-ROM付属のもの、インターネットのオンライン版でも見出し語を無料で検索できるものや、編纂の際に使用されたコーパス上の用例を表示してくれるものまで出現している。

最近発売されて好評を博している英和辞典として、『ジーニアス英和辞典第4版』[1]『ルミナス英和辞典第2版』[2]『ウィズダム英和辞典第2版』[3]が挙げられる。(以降、ジーニアス4、ルミナス2、ウィズダム2と表記する。)この3つの英和辞典は内容の充実度に加えて、価格が3,200円～3,300円とお手ごろ感があり、収録語数やページ数も似通っており、大学受験や大学入学後に学校で購入を薦められる代表的な英和辞典になっている。それぞれの英和辞典の構成と特徴は次の表1にまとめた通りである。

表1 ジーニース第4版・ルミナス第2版・ウィズダム第2版の構成と特徴

	ジーニース4	ルミナス2	ウィズダム2
出版年	2006年	2005年	2007年
ページ数	2249ページ	2119ページ	2125ページ
収録語数	9万6千語	10万語	9万語
特徴	<ul style="list-style-type: none"> * 頻度順の語義配列（3版では語義の関連順） ● 話し言葉の重視 ● 語法・文法、類語比較を詳しく特記 ● 誤文訂正情報の表示 ● 典型的なコロケーションを太字表示 * 発音表記の大幅改定 ● 会話的成句の表記 ● 専門語句・専門語義の重視 * ネイティブスピーカー8名によるコーパスデータ+直感的判断の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ● IT用語、時事用語、科学用語を豊富に収録 ● アルファベット順を乱す合成語・派生語の追い込みを避ける ● オンライン見出し語検索（無料）サービス * リスニング欄の拡大と別売発音CD * 英和辞典で初めてTOEICに出る2,000語に3段階の頻度表示 * 文法解説を巻末から各項目に組み込み 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本格的にコーパスを活用した日本発の英和辞典 ● 語義と用例の頻度順配列 ● オンライン見出し語・用例検索（無料）サービス ● 誤文訂正情報の表示 ● 生活英語の重視、実用的用例 * 新語・新語義の追加 ● 使用域レーベル表示の平易化
囲み欄	* 文法、語法、関連、文化、事情、* 類義語比較、表現、多義語の語義展開図	* ミニ語彙欄、* コーパス・キーワード、* 構文、コロケーション、単語の記憶、リスニング、文法用語解説、日英語義比較、自他の転換、語法	* コーパス頻度ランク、* コーパスの窓、* コミュニケーション、* 作文のポイント、* 読解のポイント、語法、類義、表現、事情、関連語源
コーパス	ジーニースコーパス（アメリカの雑誌・新聞・放送番組を中心とした1億語） British National Corpus [4], Collins Wordbanks, Google	明記されず	三省堂コーパス（数千万語） （アメリカ英語6割・イギリス英語4割）（書き言葉6割・話し言葉4割） （暫定的に無料でオンライン利用可能）

*は前版からの変更点や新設項目

『ジーニース英和辞典』は20年ほど前に初版が出版されてから800万部以上の売り上げを誇り、現在日本で販売されている多くの電子辞書に採用されている。初版発売時には、多くのコロケーション情報や、詳しい語法と誤った使用例を重点的に表示し、話し言葉の記述も豊富である点が画期的で大きな話題となった。学習者に必要な情報が豊富であるという特徴は4版となった現在でも変わっていない。第4版では、コーパスの分析結果をより多くの箇所に反映させ、従来の版では語義の関連の度合いによって語義を配列していたが、改訂に当たり配列を頻度順に変更している。また、発音の大幅な見直しを行い、文法と類義語の比較の解説を強化している。

『ルミナス英和辞典』は、1990年代に編纂された『カレッジライトハウス英和辞典』を上級者向けに編纂し直した英和辞典である。文法用語の解説も詳細に記載されており、研究社の『英和中辞典』から引き継がれている正統派の側面も残している。第2版では、コーパスに基づく分析結果を反映させ、コロケーション表示と囲み欄を増やした点は、他のライバル辞典の特長を組み込んで流行に遅れまいとする意識の現れとも言えよう。特質すべきは、多くの大学生や会社員が受験する英語試験TOEICの頻出単語のランクを英和辞典で初めて記載している点で、日本で売り上げを伸ばす

独特の工夫の一つである。インターネットでの見出し語検索も無料で利用できる。

『ウィズダム英和辞典』は、日本で初めて本格的にコーパスに基づいて編纂された英和辞典である。ジーニアスと同様に、語法・誤文訂正情報を重視し、コロケーションを多く記述している。一方で語句の頻度を最重要視して語義の配列を行なう点や、最新のコンピューターテクノロジーに沿ったオンラインの見出し語検索と用例検索とを辞書購入者には無料で提供してくれる点が、他の辞典には見られないこの辞典の特長である。

1.2 複合形容詞の言語学的定義と分類

複合形容詞 (compound adjectives) とは、2つ以上の語根で構成されているが文法的にも意味的にも単独の語として機能する複合形の形容詞のことである。複合語を構成するそれぞれの語根は、通常は単独の語としても成り立つ。複合形容詞は、構造的にはいろいろな組み合わせが可能で、形容詞+名詞 (e.g. *long-term*)・名詞+名詞 (e.g. *part-time*)・形容詞+過去分詞 (e.g. *ready-made*)・副詞+現在分詞 (e.g. *ever-changing*)・副詞+過去分詞 (e.g. *well-known*) などがその例である。

ここで注意しておきたいのは、接頭辞や接尾辞が語根に接合した語は厳密には複合形容詞ではなく、合成語 (complex words) と称される。接頭辞や接尾辞は定義上、単独では語をなさず他の語根に結合して意味を成す形態素である。したがって例えば、接頭語に形容詞が付いた語 (e.g. *non-governmental, anti-social and pre-school*) や名詞に接尾語が付いた語 (e.g. *schoolboy-ish, media-wise and left-ward*) は厳密には複合形容詞とは考えない。

しかしながら、先ほど定義を示した複合形容詞の典型とは性質を異にする2種類が認められている。それらは、新古典的複合語 (neo-classical compounds) [5] [6] と称されるものと、形容詞+名詞-ed で構成されるものである。

新古典複合語とは、連結形 (combining form) [5] [6] と呼ばれる語根を含む複合語である。連結形とは、拘束語根 (bound root) で通常は複合語の最初か最後の位置を占めるので接辞に似ているが、連結形は (1) 単独の語の様にはっきりとした意味を持ち、(2) 自由語根 (free root) がなくても2つ以上の連結形同士で単語を形成することができ、(3) 接辞と接合して単語を形成できるという点で接辞と異なっている。連結形はその語源はギリシャ語やラテン語といった古典的な言語であり、例としては *Anglo-, bio-, neuro-, mono-, multi-, socio-, super-, proto-, pseudo-, -graphic, -phobia* などが挙げられる。

第2の種類は形容詞+名詞+-ed という構造を持つ *dark-haired, giant-sized, open-minded, warm-hearted* などの複合形容詞である。これらの語尾は一見すると過去分詞のようだが、屈折しないはずの名詞に脱名詞辞 -ed を加えて形成されるので、過去分詞とは区別すべきであろう。

1.3 分析方法

本稿では、複合形容詞の種類と頻度をBritish National Corpus [4] (以降BNC) で分析し、頻出する複合形容詞について、前項で挙げたそれぞれの種類の複合形容詞が代表的な3つの英和辞典でどのように記載されているかを調べる。ただしここでは、ハイフンで結ばれた限定用法で使われている複合形容詞だけを分析の対象とする。複合形容詞はたいていの場合ハイフンでつながれて

おり [7]、限定用法で用いられることが圧倒的に多いからである。[8] また、叙述用法で使われる複合形容詞は、スペースなし・ハイフンで結合・スペースありなどの複数の種類の綴りがあるのに対して、限定用法ではその殆どがハイフンで結合されているため、コーパスで検索する場合に信頼性のあるデータを抽出し易いという利点もある。

複合形容詞が辞典でどのように記載されているのか分析することには、辞書学的な意義がある。複合形容詞を辞典で記載する際には厄介な問題がある。複合形容詞は、大抵はその構成要素が一単語として見出しに記載されている場合が多く、複合形容詞を見出し語として項を設けてアルファベット順に記載すると、既出の単語の繰り返しで紙面を割くことになりかねないからである。しかも、見出し語の配列順序の問題もある。例えば *-oriented* は、*action-oriented*, *computer-oriented*, *family-oriented*, *male-oriented* などの複合形容詞を構成するが、これらの語をアルファベット順で見出し語に採用するのは統一的ではないし、効率的でもない。これらの問題の対処法は辞書によって様々である。次節では三つの辞書がこのような問題をどのように対処しているのかを見ていく。

2 辞典における複合形容詞の扱い

2.1 概観

本稿で分析する3つの英和辞典では、頻出する複合形容詞はアルファベット順に見出し語として掲載されている場合が多いようである。

次の表2は、BNCで検索した頻出50位までの複合形容詞について、各辞典かどのように扱っているかを一覧にしたものである。検索した語のうち、辞典の中ではハイフンのない形で見出し語として記載されている語 (*secondhand*, *socioeconomic*, *worldwide*) が存在するものの、頻出上位50までの複合形容詞は9割以上が全ての辞典で形容詞として見出し語に採用されている。

表2には示していないが、辞典を比較すると際立った相違がみられる。発音記号が見出し語の後に掲載されているかどうかという点である。頻出上位50までの複合形容詞のうちで見出し語に発音記号が表示されているのは、ジーニアス4では20%、ウィズダム2では22%であるのに対して、ルミナス2では実に48%となっている。他の辞典に比べてルミナス2は複合形容詞の発音に留意していると言える。

表2 頻出複合形容詞の掲載状況

複合形容詞	per mil	G	L	W	複合形容詞	per mil	G	L	W
long-term	29.3	H	H	H	state-owned	3.4	H	H	▲
short-term	12.5	H	H	H	built-in	3.2	H	H	H
full-time	12.3	H	H	H/S	socio-economic	3.2	S	S	S
part-time	12.2	H	H	H	high-speed	3.1	H	H	H
so-called	11.4	H	H	H	home-made	3.1	H	S	S
working-class	9.0	H	H	H	medium-sized	3.0	H	H	H
well-known	8.8	H	H	H	California-based	2.9			
day-to-day	7.5	H	H	H	full-scale	2.9	H	H	H
old-fashioned	7.4	H	H	H	man-made	2.9	H/O	H	H
middle-class	7.1	H	H	H	two-way	2.9	H	H	H
first-class	6.9	H	H	H	Anglo-Saxon	2.9	H	H	H
large-scale	6.6	H	H	H	in-depth	2.8	H	H	H
would-be	6.4	H	H	H	world-wide	2.8	S	S	S
right-wing	6.0	H	H	H	in-service	2.8	H	H	H
left-wing	5.3	H	H	H	client-server	2.7	H	H	H
right-hand	5.3	H	H	H	current-account	2.6	N	N	N
middle-aged	5.0	H	H	H	wide-ranging	2.6	H	H	H
in-house	4.7	H	H	H	follow-up	2.5	H	H	H
second-hand	4.3	S	S	S/H	first-time	2.5			N△
object-oriented	4.2	H	H	H	high-tech	2.5	H	H	H
left-hand	4.0	H	H	H	public-sector	2.4	N△	N	N△
long-standing	4.0	H	H	H	low-cost	2.4	H		▼
one-off	3.5	H	H	H	high-level	2.4	H	H	H
three-dimensional	3.5	H	H	H	up-to-date	2.4	H	H	H
last-minute	3.4	H	H	H	real-time	2.4	H	H	H

注) G = Genius 4 ; L = Luminous 2 ; W = Wisdom 2 数値はBNCにおける百万語あたりの出現回数。数値表現 (e.g., -year-old, -foot, -week) は除外。H = 見出し語 (headword) ; S = ハイフンのない形 (solid form) の見出し語 ; O = 分離形 (open form) の見出し語 ; ▲ = 語頭の単語の欄に複合形容詞の用例が記述 ; ▼ = 語尾の単語の欄に複合形容詞の用例が記述 ; N = 分離形で名詞として見出し語で複合形容詞の記述なし ; N△ = 分離形で名詞として見出し語で複合形容詞の用例が記述

2.2 連結形

連結形は前節1.2で述べたように、接辞とは異なる性質を持つ拘束語根である。連結形の一例であるラテン語起源の *multi-* について、次の (1) (2) (3) でそれぞれの辞典における記述を比較してみよう。

- (1) mul·ti- /mʌlti-, ((米+)) -tai/ 連結要素 多い, 多数の || *multicultural*
(ジーニアス英和辞典第4版, p.1278)
- (2) mul·ti- /mʌltɪ, -tə/ 接頭 「多くの…」の意: *multicolored* 多色 (刷り) の。
(ルミナス英和辞典第2版, p.1152)
- (3) mul·ti- /mʌlti/ 複合要素 多い, 多数(倍)の ⇒ *multi-colored*. 多色の。
(ウィズダム英和辞典第2版, p.1201)

留意すべき点は、連結形 *multi-* に対する「品詞」表示が異なることである。ルミナスでは *multi-* を「接頭辞」と表示しているが、ジーニアス4では「連結要素」(combining element) という連結形を示唆する品詞で表示し、ウィズダム2では「複合要素」(compound element) という独自の品詞を表示している。

2.3 名詞 -ed で終わるもの

語尾が名詞 -ed の形を持つ複合形容詞について、-haired を例にして各辞典における記述方法を次の (4) (5) (6) に挙げる。

(4) -haired /-heərd/ 連結要素 …の頭髮をした || curly~ 縮れ毛の / fair~ 明るい色の髪をした。
(ジーニアス英和辞典第4版、p.888)

(5) -haired /héərd | héəd/ 形 [形容詞につく合成語で] 「…な髪をしている」の意.: curly-haired 縮れた髪の. / long-haired 長い髪の。
(ルミナス英和辞典第2版、p.780)

(6) -haired /heərd/ 複合要素 …毛[髪]の ⇒ short-haired 髪の短い。
(ウィズダム英和辞典第2版、p.821)

前項の連結形の場合と同様に、ルミナス2では他の2つの辞典と記述が大きく異なっていることがわかる。ルミナス2では名詞 -ed の語尾要素を「形容詞」と分類しており、[形容詞につく合成語で] という用法の但し書きを付けて記載している。ルミナス2では他の名詞 -ed の語尾要素 -eyed, -faced, -footed, -headed, -tongued, -shouldered など形容詞に分類し、但し書きで必ず [合成語で] という記載を入れている。ルミナス2で使用している「合成語」は一般に言う複合語 (compound words) と同じ意味であることに注意しておきたい。

一方で、他の2つの辞典では、品詞の上では名詞 -ed の語尾要素は連結形と同じ種類に分類されている。ジーニアスでは「連結要素」、ウィズダムでは「複合要素」と品詞表示がある。

2.4 分詞形で終わるもの

分詞が語尾となっている複合形容詞の記述方法においても、辞典ごとに特徴がある。以下 (7) (8) (9) に他動詞 *base* の過去分詞である -based の記述方法を引用する。

(7) -based /-beɪst/ 連結要素 [名詞・副詞につけて] …を基にした、…を本拠にした；…を主材料 [成分] とした || computer~ learning / a London~ company / rice~ products.
(ジーニアス英和辞典第4版、p.158)

(8) -based /-beɪst/ 形 [合成語で] 1 …に本拠地を置いた. 2 …を主体 [ベース] にした。
(ルミナス英和辞典第2版、p.131)

(9) -based /beɪst/ 複合要素 [名 副] と結合して
1 …に本拠地 [本部, 本社] を置く. 2 …を基礎とする；…に基づく；…を主成分とする. 3 …を用いた, …ベースの。
(ウィズダム英和辞典第2版、p.146)

分詞語尾 *-based* についても、ルミナス 2 は形容詞と表示し [合成語] でという但し書きを付けている。一方でジーニアス 4 とウィズダム 2 では名詞と副詞に結合することを但し書きで記しているが、品詞はそれぞれ連結要素・複合要素としている。

なお、分詞のなかでも複合形容詞を構成するだけでなく、単独でも形容詞として用いられることがあるものがある。例えば *controlled, covered* などの語は、3 つの辞典全てでハイフンなしで見出し語になっており、「形容詞」と品詞表示されている。この場合、語義の記載欄に項を立てて複合形容詞を構成することが明記されており、[合成語で]・[複合語で]・[複合語を作って] などと用法が加えられている。その記載方法の一例を下の (10) に挙げる。

(10) *cóv•ered* 形 1 [名の前] 屋根つきの〈場所など〉, ふたつきの〈物など〉⇒ a covered mall [market] 屋根つきのショッピングセンター [市場] . 2 [複合語を作って] …で覆われた⇒ chocolate-covered strawberries チョコでコーティングしたイチゴ / the snow-covered Alps 雪に覆われたアルプス. 3 隠れた.

◆～ wagon ほろ馬車 ((米開拓時代の屋根つきの馬車)).

(下線部は筆者) (ウィズダム英和辞典第 2 版, p.421)

2.5 多種類の語頭要素と結合する語尾要素

前項では特定の語が辞典でどのように記載されたかを詳細に見てきたが、この項では多くの種類(タイプ)の語頭要素と結合して現れる語尾要素が辞典でどのように記載されているかを見ていくことにする。

表 3 は BNC の分析により最も多くの種類の語頭に結合した語尾要素上位 50 を抽出し、それらの語尾要素が辞典でどのように記載されているかをまとめたものである。

表 3 ではそれぞれの英和辞典が独特の表示方法を使用していることが分かる。まず語尾要素の品詞について、それぞれの辞典で異なる表示があることがわかる。ジーニアス 4 は複合形容詞の語尾が結合する語頭要素の種類が多いものほど連結要素、少なくなるにつれて形容詞に分類している傾向が認められる。ウィズダム 2 では同様に接尾辞、複合要素、形容詞の順で分類している。ルミナス 2 は多様な語頭に結合するものには接尾辞に、残りのほとんどは形容詞に分類している。

またジーニアス 4 やウィズダム 2 で英和辞典で連結要素や複合要素に分類されているものは、ルミナス 2 ではハイフン付きの形容詞で見出し語にされている場合が多いこともわかる。

さらに表 3 より、*-up, -out, -off, -down, -on* などを見出し語にならないことがわかる。このような要素は、ハイフンなしで前置詞や副詞として見出し語になっており、様々な語頭要素(特に動詞)と結合してイディオムを形成して意味を表すことが多く、語尾要素自体の意味を再度列挙するのは紙面の無駄になるからだろう。

また、*-level, -class, -line* のような名詞の語尾要素も、見出し語として記載されず、また複合形容詞を形成することも記載されていない。これは名詞が後続の名詞を修飾することがあるのは、いわゆる「形容詞的名詞」(adjectival nouns) として広く知られている文法現象であり、ハイフンに続く名詞が複合名詞を構成し、それが形容詞の働きをするのは当然と言えるからであろう。

表3 多種類の語頭要素と結合する語尾要素の辞典における記載方法

タイプ数		G	L	W	タイプ数		G	L	W
-based	1291	R	-A	F	-bound	121	R	-A	F
-like	1140	R	S	S	-eyed	121	A2	-A	F
-style	502	R	-A	F	-minded	120	R	-A	F
-type	468	R	S		-built	119		-A	
-looking	466		-A	F	-driven	115	A	-A	
-related	306	A1	A	A1	-down	112			
-up	302				-only	108			
-free	295	R	S	F	-owned	105	R	-A	F
-shaped	280	A	A	A1	-trained	105	A	X	A2
-born	235	R	-A		-dominated	104			
-sized	228	R	-A	F	-made	98	A1	-A	A1
-coloured	224	A1	A2	A1	-on	98			
-out	185				-sounding	97	A3	A	F
-filled	177	R			-specific	97	X	X	A4
-in	174	R	S	F	-clad	95	A	A	A1
-faced	173	R	-A	F	-laden	93	A3	A▲	A3
-led	167	A	-A		-green	90			
-off	158				-run	90		-A	
-covered	155	A2	A2	A2	-orientated	88	A	A	A
-backed	151	R	-A	S	-bearing	86	A	-A	
-making	150	R	N1	N▲	-induced	86	A	X	F
-level	139				-lined	86	X		A3
-controlled	138	A4	A2	A4	-class	84	N6		
-oriented	128	A	-A	A	-line	84			
-headed	123	A2	-A	A2	-inspired	82	A2	A3	A2

注) G = Genius 4 ; L = Luminous 2 ; W = Wisdom 2 タイプ数は BNCより筆者が分析した値。R = 連結要素として見出し語 ; F = 複合要素として見出し語 ; S = 接尾辞として見出し語 (suffix) ; A= ハイフンなしで形容詞として見出し語で複合語・合成語を構成することが明記、横の数字はそれが明記されている項の順位 ; -A = ハイフンありで形容詞として見出し語 ; X = ハイフンなしの形容詞で複合形容詞の用例はなし ; N = 名詞の複合語・合成語として見出し語 ; ▲ = ハイフンなしで用例が記載・項はなし ; 空欄は表示なしを示す

3 まとめと結論

以上の分析から、3つの英和辞典における複合形容詞の記述方法の主な特徴を表4にまとめた。

ここで再度3つの英和辞典における複合形容詞の記述について主な特徴を挙げておく。ラテン語やギリシャ語に由来する連結形の品詞をルミナス2は全て接辞扱いしているのに対して、ジーニアス4では連結要素という表示にしており、複合要素あるいは接辞という中間的な記載をウィズダムが採っていると言える。

複合形容詞を構成する分詞形の語尾要素の品詞は、ルミナス2はいかなる場合でも形容詞であるのに対して、ジーニアス4とウィズダム2は頻度の高いものには連結要素あるいは複合要素に分類し、低くなるにつれてハイフンなしの形容詞を見出し語にしてその語義に複合語としての用法を記述する方法を採っている。

相違点を見つけることができたが、共通点もある。どの英和辞典でも、頻出する複合形容詞は一語としてアルファベット順で見出し語に採用し、新造力のある語尾要素は、それとわかる形で記載

表 4 3つの英和辞典における複合形容詞の記述の特徴

	ジーニアス 4	ルミナス 2	ウィズダム 2
連結形 Combining forms	連結要素 (ハイフンあり)	接辞 (ハイフンあり)	① 複合要素 (ハイフンあり) ② 接辞 (ハイフンあり)
名詞-ed 形 -[Noun-ed]	連結要素 (ハイフンあり)	① 形容詞 (ハイフンあり)・項 を設けて[合成語で]と表示 ② まれに接尾語	複合要素 (ハイフンあり)
-分詞形	① 形容詞 (ハイフンなし)・項 を設けて[複合語で]と表示 ② 連結要素 (ハイフンあり)	① 形容詞 (ハイフンなし)・項 を設けて[合成語で]と表示 ② 形容詞・(ハイフンあり)・[合 成語で]と表示	① 形容詞 (ハイフンなし)・項 を設けて[複合語で]と表示 ② 複合要素 (ハイフンあり)
その他の新造力 のある語尾要素	① 形容詞 (ハイフンなし)・項 を設けて[複合語で]と表示 ② 連結要素 (ハイフンあり)	① 形容詞 (ハイフンあり)・[合 成語で]と表示 ② まれに接尾語	① 形容詞 (ハイフンなし)・項 を設けて[合成語で]と表示 ② 複合要素 (ハイフンあり)

する工夫がなされている。用法の但し書きを語義の項目冒頭に置いている方法は3つの辞典に共通している学習者が利用しやすい工夫である。

最後に各々の英和辞典の問題点を挙げておく。ルミナス2は接辞と連結形と呼ばれる要素を区別せず全て接辞に分類し、複合形容詞を構成する要素そのものを形容詞に分類するという稀な単純化の方法を採った。このため、言語学的な精密さを無視した印象がぬぐい切れない。ジーニアス4では「連結要素」という、連結形 (combining form) とその他の複合形容詞の要素も含めた独自の品詞を使用しているが、連結要素という品詞が含む語根の範囲、特に分詞形で形容詞と連結要素とを区別する基準が何であるのかが釈然としない。同様にウィズダム2では「複合要素」という独自の品詞を設けているが、連結形と思われる語根が接辞あるいは複合要素に分類される判断基準が明確でなく、ジーニアス4に比べて語源を重視していない印象を受ける。語源まで遡って品詞の言語学的厳密さを極めるか、品詞を単純化して学習者にわかりやすい表示にするか。本稿のような辞典の記述の細部に渡る分析によって、辞書編纂者のポリシーが鮮明に見えてくるのである。

引用文献

- [1] 『ジーニアス英和辞典第4版』 小西友七・南出康世 編集主幹、大修館、2006年
- [2] 『ウィズダム英和辞典第2版』 井上永幸・赤野一郎 編、三省堂、2007年
- [3] 『ルミナス英和辞典第2版』 竹林滋・小島義郎・東信行・赤須薫 編、研究社、2005年
- [4] *The British national corpus*, World edition. CD-ROM. (2000). Oxford, England: BNC Consortium.
- [5] Jackson, H. (2002). *Lexicography: An introduction*. London: Routledge. p. 9.
- [6] Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G., & Svartvik, J. (1985). *A comprehensive grammar of the English language*. Harlow, England: Longman Group. p.1575.
- [7] Sinclair, J. (Ed.). (1990). *COBUILD English grammar*. Glasgow, UK: Harper Collins. p.83.
- [8] Biber, D., Johansson, S., Leech, G., Conrad, S., & Finegan, E. (1999). *Longman grammar of spoken and written English*. Harlow, England: Pearson Education. p.538.

受理日 平成21年9月30日

